

ああ 遠くの空は 晴れている



NO32

南箕輪村教育委員会

南箕輪村三校合同研修会（8/19）報告（2）

子どもに合った指導・支援(合理的配慮を含む)は、 一緒に考えることが重要！

【教職員の皆さんの感想】…今までを振り返りつつ、子どもとの適切なかわり方を考えるよい研修となりました。

○ 授業のユニバーサルデザインは、支援が必要な一部の子どものためだけではなく、クラス全体の学びの質を高めるために不可欠であると再認識しました。

単に指示を与える・注意を払うだけでなく、立ち位置や視線の高さ、視覚的な配慮など、迷わず行動できる環境を整えることが指導の通りやすさにつながると感じました。

○ 田中先生のお話をお聴きして、まず田中先生が挙げていた、子どもに合った指導や支援を一緒に考えていく、まさにチームでことに当たる大切さに気づきました。そして、学校職員のみならず、他の機関など自分とは違う分野の方のお力をお借りすることで、子どもにとってより良い指導や支援を考えることができると感じました。

また、先生のお言葉の中で私が特に印象深かったのは、うまくいっているときにこそ、自分自身の取り組み内容を分析して振り返る大切さを深く感じました。

いつも自分はうまくいかなかったところに着目しがちですが、上手くいっていることにも自分から目を向けていきたいと思いました。あと、褒め言葉は伝えているようではなかなか意識できていないこともあるんだなと気づきました。よく花まるとか描いてあげることも多いので、褒め言葉こそ伝わりやすさが肝心だなとも思いました。

○ 褒められることの心理、子どもの心の動きについて感じた講演でした。教師のコトバの中にある表情や感触が、次につながっていき、子どもたちがわかったを実感できて、心が沸き上がり、変わっていくんだと思いました。今日からの2学期に心がけていきたいと思います。

○ 自分は特別支援に携わる期間が長いので、分かっていたつもりでも現在は疎かにしているなあと感じるものが多くありました。「褒める」その上で「やってほしいことを伝える」、改めてやっていこうと思いました。

同時に我が子のことはほとんど褒めていないなと感じました。そちらも気づかせていただきました。

○ 5つの授業スキルのうち特に言葉を削る事の大切さを実感し、早速アイコンタクトや、ジェスチャーを増やしてみました。また、褒める時は出来た結果ではなく、しようとした事、ほんの少しの努力を褒めるよう意識していこうと思いました。

今後は自分の普通、あたりまえを定期的に疑う事を忘れず、アップデートの為の努力をしていこうなど、新たな刺激を頂きました。

○ 田中先生の講演を聴いて、改めて褒めることの大切さを感じた。私はつい、子どもたちができていることを「当たり前」と捉えてしまうことがある。また、自分の価値観から「これくらいできてほしい」と考えてしまうこともある。

今回の講演を通して、子どもにとっての頑張りや成長を見つけ、認めて言葉にして伝えることが大切だと学んだ。これからは、できていないことだけに目を向けるのではなく、一人ひとりのよさや頑張りを見つけ、積極的に褒めていきたい。

○ ご講演をお聞きして、「Nothing About us without us」との意識が私たちにとっても大切なのだということを感じました。生徒理解や教科指導においても私たちは様々な工夫、努力をするわけですが、その結果子どもたちにとってどうだったかというフィードバックがなければ、もしかすると教師の自己満足の可能性もあります。

子どもたちの声を聴きながらつけるべき力がつくように日々努力していくことを改めて肝に銘じました。

○ 久しぶりに生の（オンライン等でない）ご講演を拝聴し、10年近く前を振り返りながら、自分が大切にしてきたこと、実践してきたことを振り返ることができました。「非言語で」の話はとても分かりやすい必要な視点でした。「意図的に行う」ということと、「意図を周囲と共有する」ことが大切だと感じました。また、人が変わっても続く「システム」をつくることの大切さを通級担当として意識していきたいと強く思いました。「Nothing about us without us」は私がこの仕事を始めて（親としても）一番大切にしてきたことです。それを南箕輪村の先生方と共有できて大変意義深いことだと思います。

◆日々の授業において、「あたたかなまなざし」をベースに、「確かな授業スキル」を活用して、「一人ひとりの子どものよさと可能性を伸ばしていく」ことを、お互いが再確認する研修の機会となりました。